

2-4 プラック

プラックの役割

■ コードをリズムカルに演奏する

プラックの主たる目的は「**コードの演奏**」。その際にリズムカルに刻みながら演奏する点もポイント。ドラムやベースとともに楽曲のリズム感を担う。

■ 旋律を演奏する

プラックはリードの代わりにメロディを演奏することもあり、これをプラックリードという。リードよりも軽やかな印象に仕上げることができるので積極的に活用したい。

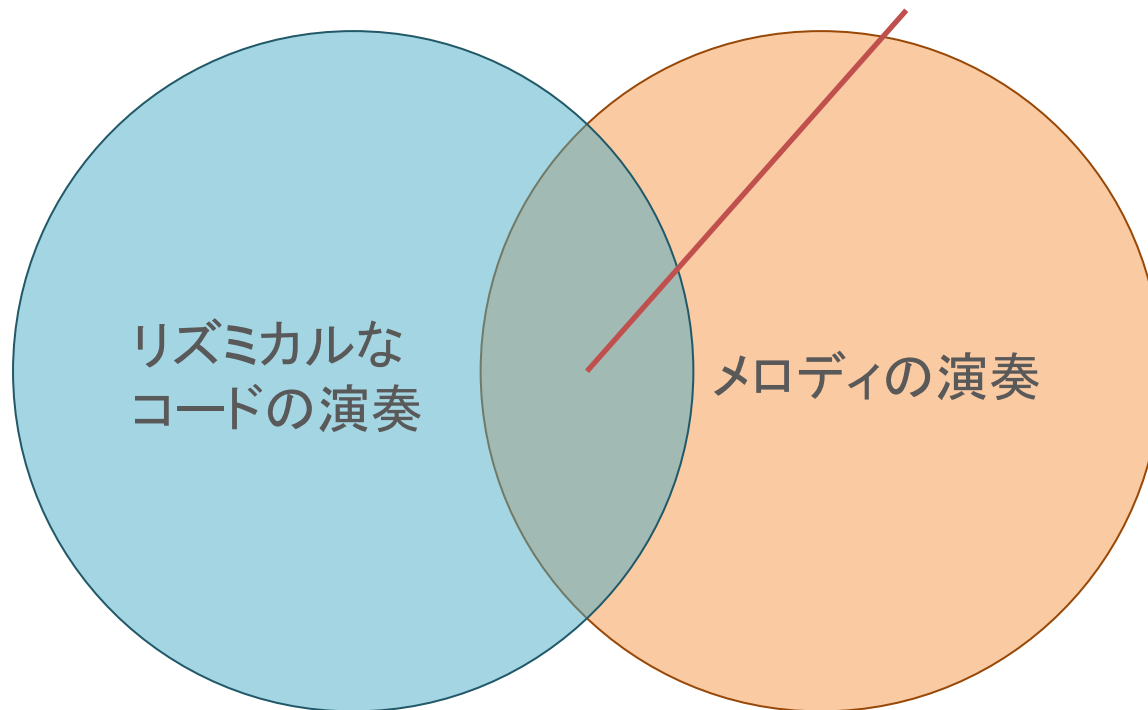
■ 両方の合わせ技も

コードを演奏しながらトップノートでメロディを演奏するといった、双方の合わせ技も有効。単なるコード弾きよりもメロディアスに聴かせることができ、単調さを防ぐことができる。

プラックの役割

プラックの役割はリズムカルなコードの演奏＋旋律の演奏

コードを刻みつつ、トップノートでメロディを演奏する。

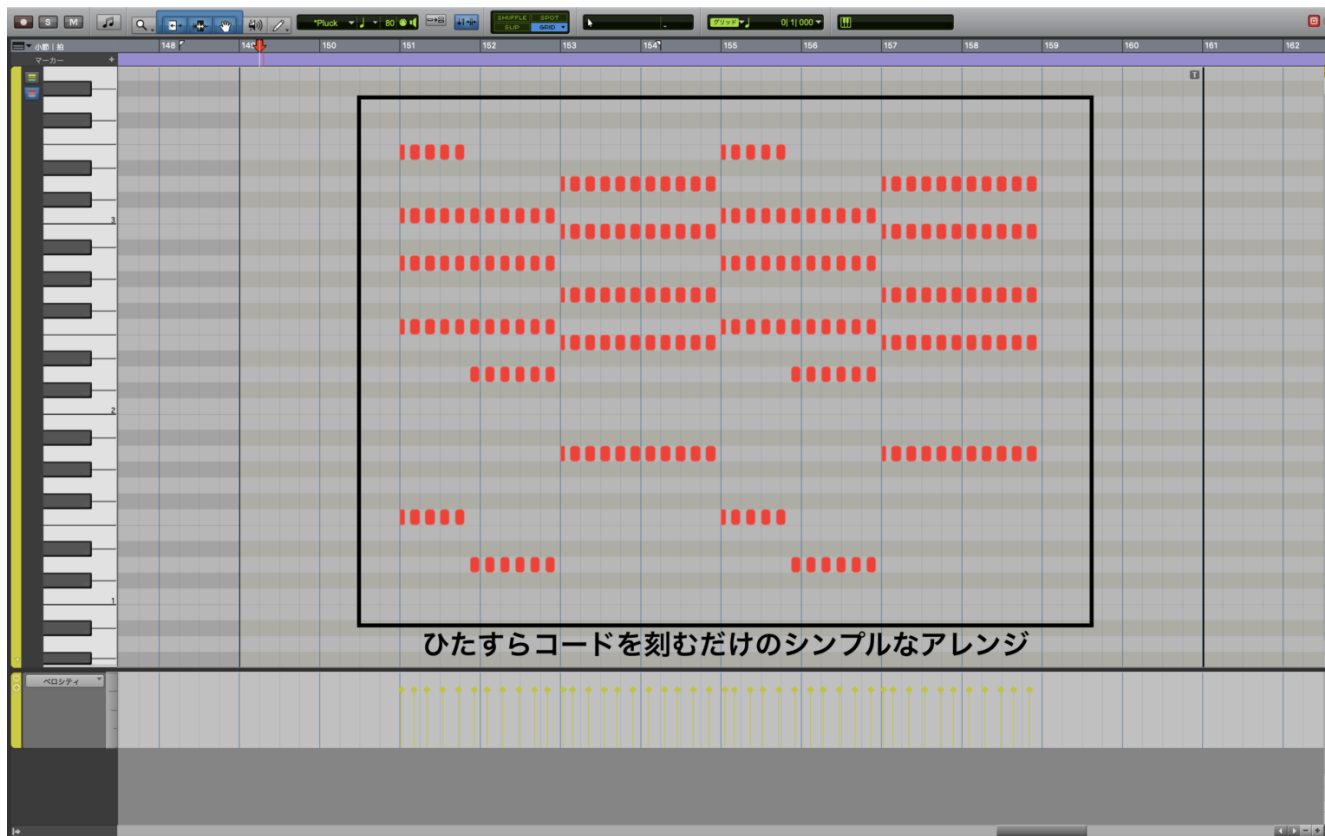


プラックのアレンジ法

- ① コードを刻む
- ② メロディを演奏する
- ③ コードを刻みつつ、トップノートを旋律的に動かす

① コードを刻む

シンプルにコードを刻むだけのアレンジ方法。



② メロディを演奏する

リードよりも軽やかで清涼感のあるメロディに仕上げることができる。



③ コードを刻みつつ、トップノートを旋律的に動かす

コードを刻みつつトップノートを動かすことで、旋律としての役割も担う。



各コードのトップノートに動きを出して旋律的に

ブラックの音作り:オシレータの設定

■ メインのオシレータ

ノコギリ波やパルス波等の倍音の多い音を選び、フィルターエンベロープで輪郭を出そう。太さを出すためにユニゾン+デチューンを活用するのもオススメ。

■ サブのオシレータ

メインオシレータだけではカバーしきれない周波数領域の補強に使おう。メインオシレータとオクターヴ関係を作ると、より広い周波数帯域をカバーできて充実したサウンドが作りやすくなる。とくにメロディを演奏する場合にはオススメ。

プラックの音作り:オシレータの設定

■ コード演奏用のプラック



■ プラックリード



プラックの音作り:エンベロープの設定

■ アンプリチュードエンベロープ

リズムカルに演奏するためには、ハッキリとした輪郭を持たせることが重要。アタック早め、サステインは弱め、ディケイで音形を微調整という流れでセッティングしていく。アンプリチュードエンベロープ側でサステインやディケイを絞りすぎるとフィルターエンベロープの設定がやりにくくなるため、最初は緩めに設定しておき、フィルターエンベロープのセッティングが終わった後、再度微調整するのが良い。

■ フィルターエンベロープ

アンプリチュードエンベロープ同様、ハッキリとした輪郭を出すことに注力しよう。基本的にはアンプリチュードエンベロープと同様のセッティングでOK。

プラックの音作り:エンベロープの設定

■ アンプリチュードエンベロープ



■ フィルターエンベロープ



プラックの音作り:エフェクト処理

テンポディレイとプラックの相性は抜群！プラックのリズムをより複雑でディープなグルーブに変えてくれるマストアイテム。効果的に使用してカッコいいグルーブを作っていこう。

